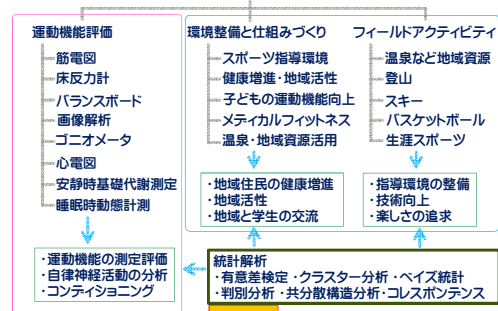


応用健康科学・スポーツ科学の研究室へようこそ

-新潟大学村山研究室の紹介-

国民の“健康増進”を目的とした“現場で応用”できる研究



リレーションシップデザインによる実社会への応用



外部との共同研究プロジェクト

2014年～
温泉利用指導者・温泉入浴指導員全国組織設立プロジェクト

2012年～
県民の身体活動量増加を目指した勤労者の運動量実態調査 (新潟県福祉保健部)

2012年～
地域住民の行動変容を目指した温泉資源と地域環境の活用による保養モデルの開発 (日本健康開発財団)

2012年～
新潟市公園活性化プロジェクト (新潟市)

2012年～
運動実施高齢者における下肢の筋力及び運動機能評価法の開発 (新潟健康増進財団)

2012年～
幼児の運動機能評価に関する研究 (新潟市保育者研究会)

研究・教育受賞歴

2014年3月
新潟大学学長賞受賞 (教育学研究科2年 尾山裕介)

2014年3月
日本体育学会第64回大会測定評価専門分科会「優秀発表賞」 (尾山裕介)

2013年3月
第38回財団法人健康開発財団助成研究「最優秀賞」 (村山敏夫)

2013年3月
新潟大学学長賞受賞 (教育学研究科2年 吉田彩)

2013年1月
日本体育学会第63回大会測定評価専門分科会「優秀発表賞」 (吉田彩)

競争的研究費獲得実績

2014年
第40回日本健康開発財団研究助成「温泉利用指導者の全国組織設立と人材ネットワーク構築による地域活性化への波及効果」
研究代表者: 村山敏夫

2013年
第39回日本健康開発財団助成研究「人材交流を目的とする温泉利用指導者・入浴指導員のネットワーク構築の取り組み」
研究代表者: 池山香

2013年
上月財団第11回スポーツ研究助成事業「高次神経機能に基づく運動制御評価法の開発」
研究代表者: 村山敏夫

2012年
第38回日本健康開発財団研究助成「地域住民の行動変容を目指した温泉資源と地域環境の活用による保養モデルの開発」
研究代表者: 村山敏夫

座位反応時間テストの提案 SRT～Sitting-position Reaction Time～

高齢者への負担軽減を目指した反応時間計測法の提案

【Point】転倒予防の観点から、全身反応時間テストの必要性は高い
【Problem】高齢者に対して跳躍動作を伴う現在の全身反応テストではリスクが大きい
【Proposal】タイナミックな動作を必要としない座位による反応時間テストを提案する

反応時間テストの提案に向けて: 全身反応刺激の課題を変えることで結果に影響が生じるのか?

視覚への刺激 聴覚への刺激

条件設定による反応時間の結果と運動機能の関係を探る

全身反応時間テストの整理
①立位反応時間テスト (従来の測定方法)
対象者: 幼児、小学生、中学生、高校生、成人
目的: 敏捷性の評価としての体力評価
②座位反応テスト (本研究で提案する測定方法)
対象者: 高齢者
目的: つまづきなどによる転倒予防のための運動機能評価

座位反応時間テスト (利き足挙上法)

～方法～
①椅子に座り測定マットに利き足を置く
②光フラッシュの合図で利き足を挙げる
③計測を3回繰り返して平均値で評価

～利点～
・高齢者・低体力者でも計測可能
・従来の測定との相関が高い

座位反応時間テスト (立ち上がり法)

～方法～
①測定マットを敷いた椅子に座る
②光フラッシュの合図で立ち上がる
③計測を3回繰り返して平均値で評価

～利点～
・従来の測定よりも筋力などの要因を受けやすいため、体力評価の目安となる

